



今月のトピック：【大人のやる気ペン】

「大人のやる気ペン」がブームです。筆記具に装着する軽量デバイスが書く時間を測定してスマホのアプリに送信すると、学習時間としてグラフに可視化します。時間によって叱咤激励のメッセージが届き、自分のアバターが他のユーザーと交流する楽しみもあります。孤独な時間さえ自己肯定感アップにつなげる未来型サポーターの登場です。



今月のネタ話：【言葉の壁を「着る」時代へ】

2026年、翻訳は「端末を操作する」から「身にまとう」ものへと劇的に進化します。主役を担うのはスマートグラスやイヤホン型のウェアラブルデバイス。この変革を支えるのが、OpenAIなどが提供する「Realtime



API」と呼ばれる音声翻訳技術です。これにより今まで数秒かかっていた翻訳のタイムラグを1秒未満に抑え、会話のテンポを驚くほど自然なものに変えてくれました。相手の目を見ながら、まるで同じ言語で話しているかのように対話ができるのです。すでに実用化も始まっています。Metaのスマートグラスはレンズに相手の発言を字幕で表示するシステム。日本発の「CoeFont 通訳」は、自分の声質を保ったまま多言語で発話するというから驚きです。もはや言語習得はビジネスの必須条件ではなくなりつつあります。それに変わって、AIデバイスを使いこなす「ウェアラブル・リテラシー」が新たなスキルとなるのでしょうか。言語の壁が消え、世界中の誰とでも語り合える時代が目の前まで来ているようです。



来る4月23日は「シジミの日」。その豊かな栄養と水質浄化の働きをPRしようと「シ(4)ジ(2)ミ(3)」の語呂合わせにちなみ、島根県松江市にある有限会社日本シジミ研究所が制定しました。シジミが健康増進に役立つ栄養素を多く含むのはサブリなどでも知られるところ。お酒好きの人の中にはアルコール分解を助ける酵素「アラニン」に救われた、という方もいらっしゃるかもしれません。さらに特筆すべきは冒頭でもあげた「水質浄化」。シジミは餌として植物プランクトン等を探る際、入水管から取り込む水をエラでろ過するのですが、その水量たるや体重1グラムのシジミ1個につき1時間あたり約170ミリリットル。なんと自重の170倍もの水をろ過しているそうで、濁り水を透明に変える「生きたフィルター」なる異名もあるのだとか！記念日には食に健康に環境に活躍をみせる小さな貝に思いをはせつつ、おいしいシジミ汁を楽しんでみてはいかがでしょうか。



今月のキーワード：【water】

3月22日は人々が水資源の大切さを認識するようにと国連が制定した「世界水の日“World Water Day”」です。日本語でも「ミネラルウォーター」のようにカタカナで発音されることもある「水」、英国では日本語の発音に近い「ウォータア」ですが、米国ではちょっと異なり「ウワーダア」と発音します。“water”は「水」という名詞の他にも動詞として「水をやる」という意味もあります。

“Will you water my plants while I'm gone?”は「留守の間、植物の水やりをしてくれる？」です。

掃除機でも取りきれないカーペットに絡まった髪の毛やペットの毛は、乾いたゴム手袋をはめて表面を円を描くように撫でると、摩擦による静電気の力とゴムの粘性が毛を絡め取って驚くほどまとめて取れます。専用のクリーナーより手軽で強力でお値打ちです。

